

Title	言語文化学 Vol.12 学会の活動/会則
Author(s)	
Citation	大阪大学言語文化学. 12 p.287-p.290
Issue Date	2003-03-31
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/77967">https://hdl.handle.net/11094/77967</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 学会の活動

平成 14 年 6 月 22 日 大阪大学言語文化学会第 22 回大会

### <研究発表会>

ウィッチャヤー ウォラジンダ：モーラムを通して伝達される説話

－「シートン王子とマノーラー姫」説話の例－

張 文碧：食の俗諺内容に見る日中食文化の一考察

上田 哲二：記憶と想像のゆらぎ

－詩人余光中における家郷の位相－

松本 敬子：英語教育におけるライティング

－Webbing Map による Free Writing の一考察－

中越 綾：暴力の条件としての親密さ

－ドメスティックバイオレンスにおける「侵入」－

### <総会>

活動報告

委員改選

新委員：

高岡幸一（委員長）、尾崎久男、津田保夫、深澤一幸、ヨコタ＝村上

孝之、伊賀上菜穂、遠藤裕昭、簗内智、大前智美、許均瑞、富田剛、

中山千冬、宮田律子

会計報告（次頁の通り）

平成 14 年 10 月 31 日 大阪大学言語文化学会第 23 回大会

### <研究発表会>

許 均瑞：1990 年代台湾出版市場における日本出版物の受容

－「日本ブランド言説」の展開可能性はいかに－

中山 千冬：サンバと対話者たちの世界観

－セネガルの作家シェイク・アミドゥ・カーンの小説

『曖昧な冒険』第 2 部 5 章より－

齊藤 園子：The Europeans における国際関係

田島 昭洋：シューベルトのリートとウィーン古典派のリートの相違に

関して－『魔王』と『すみれ』の対比から－

鈴木 清香、北尾 泰幸：日本語を母語とする子どもによる数量詞と否定  
辞のスコープ関係の習得について

木村まきみ：既存語と借用語の使い分け

－OED2, BNCに見る同義語の使用実態と傾向－

北山 夏季：在日ベトナム人生徒の言語をめぐる問題について  
－生徒たちとの対話から－

平成 15 年 3 月 31 日『言語文化学 第 12 号』発行

<査読者>

五十嵐徳子、井元 秀剛、岩根 久、植田 晃次、大森 文子、  
沖田 知子、金崎 春幸、金子 元臣、北村 卓、木村 健治、  
木村 茂雄、小門 典夫、小杉 世、里内 克巳、高岡 幸一、  
田畑 智司、津久井定雄、ディボフスキー・アレクサンドル、中 直一、  
中埜 芳之、日野 信行、広瀬 雅弘、深澤 一幸、福田 覚、  
森 祐司、山田 雄三、ヨコタ村上孝之、力武 京子、  
我田 広之、渡部眞一郎、渡部 秀樹

《平成13年度 言語文化学会 会計報告》

(単位：円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	543,306	『言語文化学』第11号印刷代	466,200
学会費	798,000	『言語文化学』第11号発送費	52,590
懇親会費	22,000	懇親会費	34,895
利子・利息	83,741	通信費	46,130
『言語文化学』売上	5,500	消耗品費	3,423
		振込み手数料	420
		次年度繰越金	848,889
計	1,452,547	計	1,452,547

平成13年度会計担当委員 大平未央子

会計監査（平成14年6月6日） 福田 覚

以倉 理恵

## 大阪大学言語文化学会会則

- 第1条 本会は大阪大学言語文化学会と称する。
- 第2条 本会の会員は次の2種とする。
1. 通常会員：大阪大学言語文化研究科及び言語文化部の教官、大学院院生、大学院修了者で所定の会費を納めたもの。
  2. 特別会員：元教官及び本会にとくに貢献したもの。
- 第3条 本会は会員の学術研究を促進するとともに、研究成果の普及をはかり、広く学術全般の進展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達するために研究会を開催し、機関誌を発行する。
- 第5条 本会の会員は機関誌の配布を受ける。
- 第6条 本会は第3条の目的を達するために年1回、言語文化学会総会を開催する。
- 第7条 本会に次の役員をおく。
1. 会長及び委員、監事をおく。
  2. 会長を言語文化研究科長、副会長を言語文化部長とする。
  3. 委員は原則として教官より5名、大学院院生より5名を選出する。なお別に事務担当をおくことができる。
  4. 監事は2名とし、会計の監査にあたる。監事は会長が委嘱する。
- 第8条 本会に委員会をおく。
1. 委員会は前条3の委員をもって構成する。
  2. 委員会に委員の互選による委員長、企画・編集委員（若干名）、会計委員（若干名）をおく。
  3. 委員会は本会の運営にあたる。
- 第9条 役員の任期は次の通りとする。
1. 会長及び副会長の任期は言語文化研究科長及び言語文化部長の任期に従う。
  2. 委員の任期は1年とする。
  3. 監事の任期は1年とする。
- 第10条 本会の経費は会員の会費及びその他の収入による。
1. 会費は付則に定めるところによる。

2. 本会の会計年度は毎年4月より翌年3月までとする。

第11条 本会の事務局は大阪大学言語文化研究科内におく。

- 付則
1. 通常会員は会費として年間 3000 円を納める。
  2. この会則の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛同を必要とする。
  3. 本会則は平成3年5月8日より発効する。